

行く度に予算狂わす物価高

竹本 タエ子

吐く息をゆっくり吸って血圧計

田中 たづ子

何しても一步届かぬ年となり

坪郷 英美子

そう言えば「よいしょ！」と言わぬ若い人

藤井 節子

時忘れ画面に見入る冬五輪

寺畑 末雄

いくたびによさんくるわすぶつかだか

たけもと たえこ

はくいきをゆっくりすってけつあつけい

たなか たづこ

なにしてもいっぽとどかぬとしとなり

つばごう えみこ

そういえば「よいしょ！」といわぬわかいひと

ふじい せつこ

ときわすれがめんにみいるふゆごりん

てらはた すえお

春立つや吃水深き輸送船

馬場 精作

神苑の友の記念樹枝垂梅

村瀧 富子

間延びせし音読の声春炬燵

林 保江

小枝切る鋏のひびき梅日和

山本 隆子

ときめきもやや薄くなり老の春

賤間 由美子

はるたつやきっすいふかきゆそうせん

ばば せいさく

しんえんのもののきねんじゅしだれうめ

むらたき とみこ

まのびせしおんどくのこえはるこたつ

はやし やすえ

こえだきるはさみのひびきうめびより

やまもと たかこ

ときめきもややうすくなりろうのはる

ざいま ゆみこ

短歌

クラス生徒還暦われ卒寿
口調顔立ちまんまの彼等

春はそこ部活帰りの子の声が
日脚の伸びた空にとけゆく

いつの間に中学生になった子ら
さざんか咲いた路地に集いて

侘助は天に向かいて花百こ
第九うたうか空の澄みゆく

取り入れし肌着をたたむ丸き背の
母の面影西日の部屋に

佐藤 哲夫

賤間 星

福江 博子

永野 瞳

藤井 美智子

くらすかいせいとかんれきわれそつじゆ
くちようかおだちまんまのかれら

はるはそこぶかつがえりのこのこえが
ひあしのびたそらにとけゆく

いつのまにちゅうがくせいになったこら
さざんかさいたるじにつどいて

わびすけはてんにむかいてはなひゃっこ
だいくうたうかそらのすみゆく

とりいれしはだぎをたたむまるきせの
ははのおもかげにしびのへやに

さとう てつお

ざいま せい

ふくえ ひろこ

ながの ひとみ

ふじい みちこ

自由律俳句

散り敷く山茶花に行く母偲ぶ

吉野 由恵

すぐ昔に戻れた30年目の同窓会

星井 香筍

八十からの出発まずは深く眠ること

岡部 雅江

寒い夜義母の笑顔 たまご酒

西岡 悦子

ひとつのりんご半分にわけて赤色の幸せ

田中 律子

ちりしくさざんかにゆくははしのぶ

よしの よしえ

すぐおかしにもどれたさんじゅうねんめのどうそがかい

ほしい こうじゅん

はちじゅうからのしゅっぱつまずはふかくねむること

おかべ まさえ

さむいよるははのえがお たまござけ

にしおか えつこ

ひとつのりんごはんぶんにかけてあかいろのしあわせ

たなか りつこ

